

伊勢湾貧酸素情報（第 6 報）

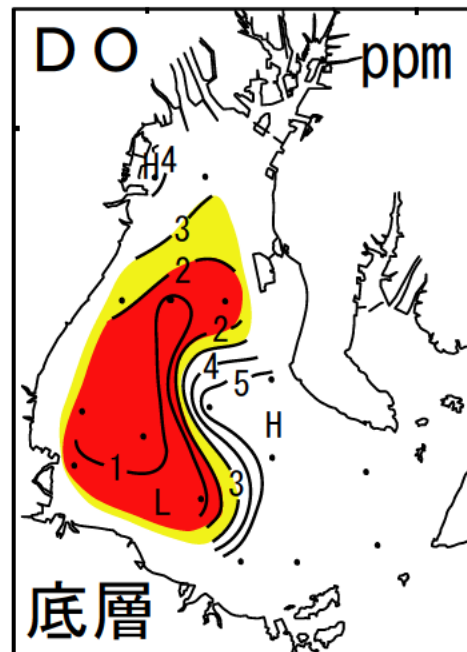
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾中央から三重県中部の沿岸域で 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

1 1 月 2 日の調査結果

11 月 2 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 19.7～20.9℃、10m で 22.4～21.9℃、底層で 20.6～22.6℃の範囲にあり、表層、10mとも高め、底層で高めからかなり高めとなっていた。塩分は表層では 25.92～31.97、10m では 30.43～32.49、底層では 31.34～33.57 の範囲にあり、表層ではやや低め、10m と底層では平年並となっていた。DO（溶存酸素量）は表層では 5.4～6.6ppm、10m では 4.5～6.5ppm、底層では 0.2～5.8ppm の範囲にあり、表層では低め、10m ではやや低め、底層では低めからかなり低めで、湾中央から三重県中部の沿岸域では 2ppm 以下となっていた。

今回の調査で、貧酸素水塊は海底付近の層だけに発生していた。今後、底層の水温が下降することにより貧酸素水塊は次第に消滅していくと考えられる。



底層貧酸素水塊分布